

ASM with B-Max S2000、自己記録を更新する初の 55 秒台をマーク

AUTOBACS ASM YOKOHAMA（代表 金山新一郎）と B-Max Custom Factory（代表 組田龍司）は、2月14日に茨城県・筑波サーキットで開催された「Attack Tsukuba 2026」にジョイントで参戦し、これまでの自車のベストタイムを大幅に塗り替える 55 秒 842 を記録しました。



ASM により仕上げられた S2000 を BCF がリフレッシュして臨んだ今大会。車両名を「ASM with B-Max S2000」として、ジョイントで筑波アタックに初エントリーし、そのステアリングは、自らも S2000 を所有する現役レーシングドライバー・木村偉織選手に委ねられました。

前日のテスト走行で、初めて ASM with B-Max S2000 をドライブした木村選手は、走行経験の少ない筑波のコースを丁寧に攻めて、56 秒 514 と、早くもこれまでのベストタイムを更新。その後ウォーターポンプのトラブルにより、オーバーヒート症状が出たため、走行を中断し、翌日の本番に備え、トラブルの解消と各部のチェックを行いました。

■アタック 1 回目

迎えたアタック本番当日。前日のテストでのタイヤは、従来の GS コンパウンドの ADVAN A050 を使用しましたが、条件の良い午前のアタックに、新しい A1 コンパウンドの投入を決めました。

事前に一度もテスト走行をしていないタイヤでしたが、グリップの向上は明らかであったため、未知のタイヤを使用するリスクを承知の上で、木村選手をコースに送り出しました。

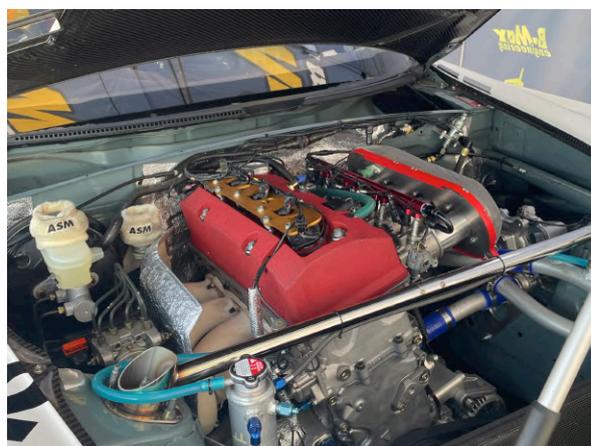
木村選手は「想像以上にグリップ力が高く、限界が掴みきれずタイムロスした部分がありました。感覚的にはあと 0.2 秒はいけた気がします」と言いながらも、見事なアタックを見せ、2019 年に加藤寛規選手が記録した自車の公式ベストタイム (56 秒 875) を 1 秒上回る 55 秒 842 をマークしました。

S2000 クラスのレコードタイム (55 秒 726) には僅かに届きませんでしたでしたが、7 年ぶりに自車の記録を更新し、ASM と B-Max のジョイントの成果を示すことができました。

■アタック 2 回目

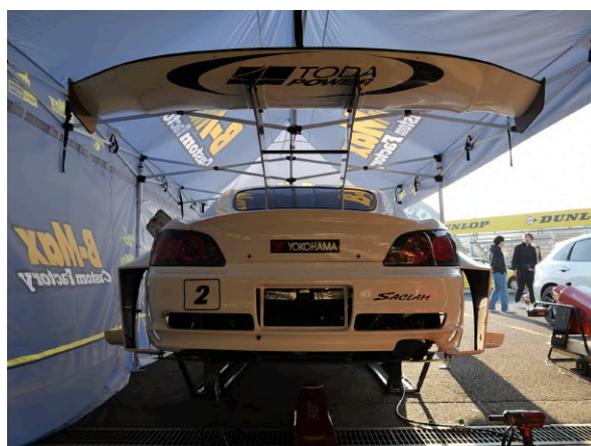
夕方の 2 回目の出走までに、車高を調整するなどのアジャストを加え、車両のチェックをして、アタックに備えました。タイヤに関しては、A1 コンパウンドのタイヤが 1 セットしか用意できず、2 回目のアタック使用で本来の性能を発揮するか不確実だったため、GS コンパウンドのものを使用することにしました。

午後 3 時 30 分過ぎからアタックが始まりました。気温も朝よりかなり高くなってしまい、条件的にはタイムアップが難しくなりましたが、何よりも A1 と GS のグリップ力の差は歴然で、木村選手は渾身のアタックをしましたが、タイムは 56 秒 436 に留まりました。



今回の ASM と BCF による筑波アタックへの参戦プロジェクトは、昨年末の B-Max Custom Factory の店舗オープンをきっかけに、準備期間が短いなかで進められました。それでも、ASM の知識と経験、そして BCF のレースで培った技術が融合したことで、ベストタイムの更新という成果を上げることができました。

来年の筑波アタックにも同様の体制で参戦し、次回はしっかり準備をして、S2000 クラスのベストタイムを更新したいと思います。参戦をサポートしていただいた関係各位、応援いただいたファンの皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。



■AUTOBACS ASM YOKOHAMA／株式会社オートバックスセブン ASM 推進部長
 金山新一郎コメント

「正直、この短期間のなかで、B-Max のスタッフがここまで車を仕上げてくれるとは思っていませんでした。ベース車両が良いからと組田さんには言っていますが、正体不明の車をたった1ヶ月でこのレベルまで持ってきて、さらに結果を残すというのは、さすがプロのレース屋の仕事だと思いました。良い意味で想定外でした。

木村偉織選手の、初めてのハイグリップタイヤに一発で合わせ込む力も凄かったです。それらすべてが結びついて、破れないと思っていた56秒の壁を超えてくれました。55秒8というタイムを見た瞬間は鳥肌が立ちました。偉織選手があと少しいけると言っていたところを修正すれば、目標とする55秒6も手の届くものだと感じ、本当に感動しました。このチャレンジに携わっていただいたすべての方に感謝いたします」

■B-Max Custom Factory／B-MAX 株式会社 代表取締役 組田龍司コメント

「ASM さんとのコラボにより初めて筑波アタックに参戦しましたが、参加者の熱量、車両のレベルともに非常に高いと感じました。盛り上がっているのは知っていましたが、実際に参加してみると、皆が年に一度か二度のアタックに懸ける情熱が伝わってきて、我々が普段参戦しているレースにはない魅力の詰まった、とても良いイベントだと感じました。

今回、一定の結果を出すことができたのは、とにもかくにも、ベースになった ASM S2000 の完成度が高かったからで、我々は少しだけ、足りないところに手を加えただけです。とはいえ、これまでのベストを大幅に更新できたことは、非常にポジティブにとらえています。

金山さんが目標としていた、同一車両によるクラストップタイムも、次の機会には達成できるという感触を得ましたので、来年は準備万端で臨みます。

さらにその先の目標として、悲願でもある NA 最速について、今回、RE 雨宮さんの車両が記録したタイム (54 秒 707) に、ぜひ挑戦してみたいと思っています。そのためには、エンジン換装も含め大幅な見直しが必要ですが、考えるだけでも楽しくなります。

今後、BCF としてこのカテゴリーに、どんな形で関わっていくべきかを考えながら、来年もまた筑波に戻ってきたいと思います。貴重な機会を与えていただいた方々にお礼申し上げます」

■B-Max Custom Factory 店長 脇山敏志コメント

「今回の筑波アタックに際して、ASM S2000 の空力のチェックと足回りのアライメント調整を中心に行いました。空力については、アンダーパネルなどのパーツの取り付け精度などを徹底的に見直し、加藤選手のストレートの伸びが足りないというコメントを参考に、リアウィングを後方に移動してドラッグを軽減しました。アライメント調整は、通常レースで行うコーナーウェイトの測定など、基本的な作業を行いました。事前の富士のテストで、これらの効果を確認できましたので、手応えを感じつつ本番に臨みました。

ただ、準備期間が短く、新コンパウンドのタイヤを含めてテストができなかったことや、初参加でイベントの流れを十分に把握できなかったことで、本来の力を発揮しきれなかったという悔しさは残ります。それでも、ベストタイムは更新できましたので、及第点は与えられる結果だったと思います。

S2000 のトップは、現在のパッケージでも十分狙えると思いますが、電子制御系をリフレッシュすれば、一段上のタイムは狙えると思います。さらに、NA 最速を目指すなら、やはりエンジンを含めた大幅なリファインが必要と感じています。

レース屋の性として、徹底的に突き詰めたくりますが、アタックイベントの持つアットホームな雰囲気の中で、自分たちの果たすべきポジションを意識しながら、ASM さんと協力して継続参戦できればと思っています」

■ドライバー 木村偉織選手コメント

「未知の要素が多い今回のアタックでした。このクルマに乗るのも初めてですし、筑波サーキットも正直 2 回くらいしか走ったことがありませんでした。タイヤも、特に 1 回目のアタックで使用した A1 コンパウンドの A050 は、どの程度グリップするのも全く分からない中で探りながらのアタックでした。

唯一の安心材料は、S2000 は普段から乗っていて、クルマの持つキャラクターを理解しているという点でした。実際に走ってみると、これだけ改造されていても、S2000 の基本的な特性は変わりませんでした。

でも、B-Max とは何年も一緒にやってきて信頼を置いていますし、何よりも、加藤（寛規）さんが、事前の富士のテストで良いセットを作ってくれたので、走り出しからセットアップのことは全く気にせず、運転だけに集中することができました。また、クルマを完璧に仕上げてくださいました ASM と B-Max カスタムファクトリーの皆さんのおかげで、思い切りアタックすることができました。

与えられた仕事は何とかこなすことができたと思いますし、新しい世界に踏み込むことができた楽しい時間でした。ありがとうございました」





■ リリースについての問い合わせ先

AUTOBACS ASM YOKOHAMA 金山

電話 045-629-0905

<https://autobacs-asm.com/>

B-Max Custom Factory 脇山

電話 0467-39-6731

<https://b-maxcustom.com/>